



令和7年(2025年)1月27日 公表
 令和6年版 山口県日本海側重要魚種の資源評価

マイワシ(対馬暖流系群)

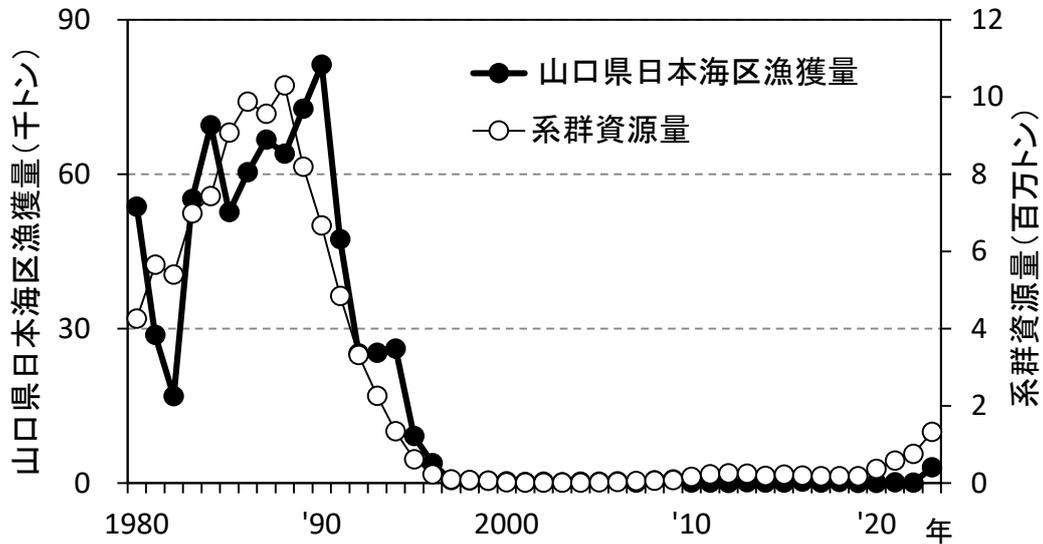


図 山口県日本海区マイワシ漁獲量(漁業・養殖業生産統計年報)及び対馬暖流系群マイワシ資源量((国研)水産研究・教育機構 資源評価報告書)の推移

【漁業】1980年代から1990年代前半には、まき網や定置網で大・中羽いわし(1歳魚以上)がまとまって漁獲されていた。しかし近年は、まき網による漁獲量が激減し、棒受網・抄網によるヒラゴ(当歳魚)の漁獲が主体となっている。

【漁獲量】山口県日本海区の漁獲量は1990年の81,286トンピークとしてその後急速に減少した。1997年以降は1千トン以下となり、さらに2010年以降は300トン以下に減少した。2023年には急増し、2,998トンとなった。

【資源状態】資源量は1970年代から増加し、1988年には1千万トンに達したが、1990年代に急減し、2001~2003年には過去最低の5千トン前後になった。2004年以降は増加し、2010年に10万トンを超えた後、2019年まで20万トン前後で推移した。2020年より増加傾向にあり、2023年は132.5万トンであった。

2023年の親魚量(SB)は最大持続生産量MSYを実現する親魚量(SB_{msy}:目標管理基準値)を下回った。また、2023年の漁獲圧(F)はMSYを実現する漁獲圧(F_{msy})を下回った。親魚量の動向は増加と判断された。

| 2023年漁獲量(万トン) | MSY(万トン) | 2023年親魚量(万トン) | 目標管理基準値(万トン) | 限界管理基準値(万トン) | 禁漁水準(万トン) |
|---------------|----------|---------------|--------------|--------------|-----------|
| 11.6 | 33.8 | 64.2 | 109.3 | 46.5 | 6.6 |